

教科書	数学	科目	数学Ⅱ	学年	2年次	単位数	4単位
レポート 添削指導	東京書籍 新数学Ⅱ・新数学Ⅱ解答編	スクーリング 面接指導	副教材	メディア 視聴票	なし	試験	2回
指導 日 時	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数および微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。						
日 期	日付	レポート 提出日	単元	学習内容	面接 回数	メディア(NHK高校講座)	
1	4月12日	5/88	1章 方程式・式と証明 1節 整式・分数式の計算	・3次の乗法公式及び因数分解を理解し、それらを用いて計算を行う。 ・二項定理について理解し、項の係数を求める計算を行う。 ・分数式について四則演算を行い、分数式に関する知識を身に付ける。	1	1 数学の始まりと3 次の乗法公式 2 3次の因数分解と パスカルの三角形 3 分数式とその計算 4 複素数 5 2次方程式 6 整式の除法と因数 定理 7 高次方程式 8 等式・不等式の証明	
2	5月8日	5月22日	1章 方程式・式と証明 2節 2次方程式	・実数から複素数の範囲まで数の世界を拡張させ、複素数の基本的事項について確認する。 ・2次方程式を複素数の範囲で解くことができる。 ・2次方程式の解の判別について理解する。 ・2次方程式の解と係数の関係について理解する。			
3	5月22日	6月5日	1章 方程式・式と証明 3節 高次方程式 4節 式と証明	・整式の除法について、商や余りについてどのような関係があるか考える。 ・除法の定理や因数定理について理解する。 ・2次方程式より次数の高い方程式を因数定理を用いた解き方を理解する。 ・等式や不等式の証明に関する知識を身に付ける。			
4	6月5日	6月19日	2章 図形と方程式 1節 座標と直線の方程式	・数直線上の2点間の距離や、線分の内分点、外分点の座標を計算する方法を身に付ける。 ・座標平面上の2点間の距離について、三平方の定理を用いた計算方法を確認する。 ・直線を表す式について、傾きや直線上の点の座標から式を求めることができる。	1	9 直線上の点の座標 10 平面上の点の座標 11 直線の方程式 12 2直線の関係 13 円の方程式 その 1 14 円の方程式 その 2 15 不等式の表す領域 その1 16 不等式の表す領域 その2 17 一般角 18 三角関数 19 三角関数の相互関 係 20 三角関数のグラフ 21 三角関数の性質	1
5	6月19日	7月3日	2章 図形と方程式 2節 円の方程式 3節 不等式を表す領域	・円の方程式について理解する。 ・円と直線の共有点を求めることができる。また、円と直線の位置関係を把握することができる。 ・不等式が表す図形について理解し、座標平面上に図示することができる。			
6	7月3日	7月17日	3章 三角関数 1節 三角関数	・三角比を一般角に拡張して理解する。 ・三角比の相互関係を利用して、他の三角比の値を求めることができる。 ・三角関数のグラフを描くことができる。			
7	7月17日	10月16日	3章 三角関数 2節 加法定理	・加法定理を理解して特別角以外の角度の三角比の値を求める。 ・加法定理を応用することで二倍角の定理を導出し、計算を行う。	1	22 加法定理 23 加法定理の応用 24 弧度法 25 指数の拡張 26 素乗根 27 指数関数とそのグ ラフ 28 対数とその値 29 対数の性質 30 対数関数とそのグ ラフ 31 常用対数	
8	10月16日	10月29日	4章 指数関数と対数関数 1節 指数関数	・指数の範囲を有理数まで拡張していき、指数法則が成立することを確認し、それを使って計算する。 ・指数関数のグラフの概形を理解し、底を意識して大小関係を考える。			
9	10月29日	11月13日	4章 指数関数と対数関数 2節 対数関数	・指数と対数の関連付けをし、対数の意味とその基本的な性質について理解する。 ・対数関数のグラフの概形を理解し、底を意識して数の大小関係を考える。 ・常用対数を用いることで指数の形で表された整数の桁数を求める。			
10	11月13日	11月27日	5章 微分と積分 1節 微分係数と導関数	・定義にしたがって導関数を求める。 ・微分係数の意味を理解し、それを利用してグラフの接線を求める。	1	32 平均変化率と微分 係数 33 導関数 34 接線 35 関数の増加・減少 36 関数の極大・極小 37 関数の最大・最小 38 不定積分 39 定積分 40 定積分と面積	1
11	11月27日	12月11日	5章 微分と積分 2節 導関数の応用	・導関数を調べることによって、グラフの増減を調べる。また、それを利用した関数のグラフのかき方について、理解を深める。 ・微分する計算を行い、関数の極大値・極小値を求める。 ・グラフをもとに、関数の最大値・最小値を求める。			
12	12月11日	1月23日	5章 微分と積分 3節 積分	・原始関数を積分定数Cを用いて示すことができる。 ・不定積分・定積分の計算を行う。 ・定積分と座標平面上の面積との関係性を理解し、積分の計算を行う。			
学習の成果に係る評価規準							
【知識・技能】 いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数および微分・積分の考えにおける基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、知識を身に付けている。							
【思考力・判断力・表現力】 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的に考えたりすることを通して、いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数および微分・積分の考えにおける数学的な見方や考え方を身に付けている。							
【主体的に学習に取り組む態度】 数学的活動を通して、いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数および微分・積分の考えの考え方に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。							
○上記の評価規準に基づき、レポート及び課題等の提出物の状況、スクーリングに取り組む姿勢及びスクーリングに基づく成果、前期・後期2回の試験結果を総合的に判断して、評価を行う。 ○【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に学習に取り組む態度】の3つの観点ごとに、それぞれ上位からA、B、Cの三段階で評価を行い、その観点別評価に基づき総合的な評価を5段階（最上位を5とし、最下位を1とする）で評価する。							
単位の修得の認定に関する基準							
観点別評価に基づいて総合的に評価された5段階評価のうち、5～2の評価を受けた者に対して、科目に配当された単位の修得を認める。							